

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

芸術学部ビジュアルアート学科教授： 梶原 新三 先生

ビジュアルアート学科三年次対象の「ビジュアルアート研究」における活用

「ビジュアルアート研究」は一年次対象「ビジュアルアート概論」の続編として位置づけられ、様々な芸術領域最前線で活躍している講師の方々を招聘するオムニバス講義です。対象となる3年時の学生にとっては今までの「夢」や「漠然としたイメージ」からちょうど将来のキャリアを具体化する時期となります。そのため、学生たちにとっては将来の展望に直結するかもしれない講話内容から、一期一会を逃すまいと、講義終了後に複数学生が個別の質問を行うために、講師を囲むといった風景が定番となっています。毎回、異なる講師を壇上に迎えることから、限られた講演時間、機会といった条件を最大限に活用するために、講師のプロフィール紹介、事前課題（予習）指示と回収、事後の課題指示と回収、講話収録後の、映像のストリーミング配信などに、Blackboard @ Tamagawa を有効に活用しておられる事例を紹介いたします。



科目の実施規模と Blackboard の活用

- ◆ 科目名：ビジュアル・アート研究
ビジュアル・アート学科 3年全員
- ◆ 授業の概要：自分の研究をより深め、そして将来の職業の可能性は・・・と、将来について考える3年生。各分野で活躍中の講師から実践を通して語られる講義は様々な芸術活動、その活動を支援する仕事の多様さ、奥行き、深さなどの具体的な話から、その結果、今の自分には何が必要か、何を準備すべきかを考える授業とする。

将来のキャリア形成

芸術学部に通う3年次の学生にとって、将来のキャリアを考え始める節目の時期ともいえるこの時期に講義が設定されている。職業の可能性、将来を考えるというきっかけとなり、側面から支えていける講義になればいいと思う。どのような話をしてもらえるかを必ず事前打合せをし、講師自身の話にくわえ、学生本人が自

分自身の「仕事」と重ね合わせて考えるような講演内容となるよう側面的なお願いをしている。事前資料にはその話を聞くための、前提事項について調べる課題が用意されている。このことが、特に各自の主体性を促すきっかけとなっている。

学生にしてみると、その講義が必ずしも期待した通りに進むわけではないが、直接その人物にふれ合い、意見を交わすことができたという体験が、貴重な経験となって生かされているということを実感している。

その意味でも、「世の中には素晴らしい仕事をしている人がいるのだということ、学生に紹介したい」という気持ちで、講師には、様々な芸術領域で活躍している方々を、毎年13人ほどをお願いをしている。講師依頼、講演内容については、大変な作業ではあるが、できる限り毎年違う講師の方を選んでいる。

Blackboard@Tamagawa の活用

教室でひとりの講師が講義を行うのは1講義、約100分である。講師と学生がただ一度の会合チャンスである教室という空間を神聖な場としたいという意気込みがある。そのためには、さまざまな形で雑多な要件で、便利にBlackboardを活用している。その活用サイクルは実際に行われる講義の数週間前から始まり、講義終了後の翌週まで続き、それが13回の授業としてなっている。

学生は、「講師のプロフィール紹介」、「事前課題指示」、「事前課題提出」をBlackboard上でを行い、授業に臨む。当日の講話の終了後には「課題指示」、「課題提出」もBlackboardを活用している。学生が提出した課題については、担当者から講師に送られる。また、貴重な講話を聞けなかった学生のために、授業を収録した映像資料がストリーミング形式で自宅などから視聴できるように、掲載もあわせておこなっている。

講師は、それぞれの立場でプロフェッショナルな方が多いが、自らの仕事について話しをする機会さえほとんどない方もいる。まして若い学生を目前にして、学生たちの将来に対する内容を含めた話をする機会は、ほとんどないといっても過言ではない。80分という限られた時間では、とても語り尽くすことができなかったというかたも多い。その場合も必要に応じて、資料などを掲載できるとい、限られた時間を有効に補完できるBlackboardの存在が安心感となりありがたい。

今後とも

感想を述べるだけでなく、疑問点や質問に回答してもらうなどインタラクティブな活用をしていきたい。そのことにより、ますます学生の主体性を即発し、一対一の親和性を多くの受講者が共有し、感性が即発されることになればと期待している。その手段にBlackboardのもつ機能をさらに活用していきたいと考えている。

ビジュアルアーツ研究 コース内容

1.Blackboard@Tamagawa マニュアル（インストラクター向け）

Blackboard@Tamagawa を更にご活用いただくために、ページ構成や機能に関するマニュアルを作成いたしました。

コースへのコンテンツの掲載方法や、テスト・アンケート機能などの機能をわかりやすく操作方法をまとめました。

MyPage 内の参加中のコース「2006V- 教員向け教材掲載・マニュアルコース」よりご覧いただけます。



Blackboard@Tamagawa (My Page)



Blackboard@Tamagawa (Instructor Manual)



Blackboard@Tamagawa (User Manual)

2.Blackboard@Tamagawa マニュアル（ユーザー向け）

学生向けの操作マニュアルは、ヘルプボタンよりご覧いただくことが可能です。また、Adobe Reader や、Windows MediaPlayer などのプラグインのインストール方法も「Plug-in インストールマニュアル」に手順を解説してあります。

今後も、Blackboard@Tamagawa を快適にご活用いただけるよう充実させてまいります。

平成 19 年度 MyPC 推奨モデルについて
Panasonic Let's Note (Windows Vista 搭載)

次年度の MyPC 推奨モデルが決定しました。

主なスペックとしては、Microsoft Windows Vista Business がインストールされた Intel CoreDuo 搭載、DVD&CD-RW ドライブ内蔵ノート型パソコンです。バッテリー駆動連続 12 時間のモデルとなっています。

毎年、入学者の約 70 % の学生が「玉川大学モデル」を購入しています。



H19 年度 推奨機

Blackboard Tips【課題機能】

課題機能は、表示期間の設定による提出期限管理、成績管理が充実した課題回収機能です。学生の課題ファイル添付による回収だけでなく、コメントのみ入力(3000文字程度)の回収も可能です。課題提出は一度に限定されます。

◆教材の添付：課題指示に Word、Excel などの資料および動画・音声教材を添付できます。

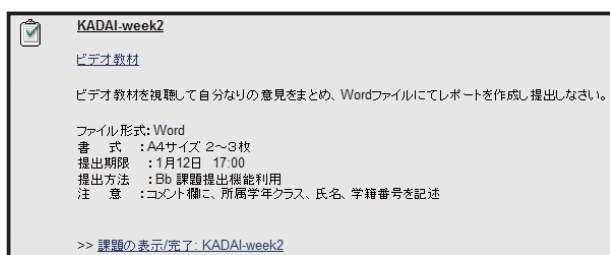


図. 課題掲載例

添付できる資料の一例



ビデオ掲載例



小原学長講話

◆成績管理：学生が提出した課題は、コース内で一括管理でき、成績をつけることができます。成績表示の有無は課題ごとに制御することができます。

◆フィードバック：提出された課題について個別にコメントまたは、ファイル添付が可能です。

◆一括ダウンロード：成績表より一括ダウンロードによる課題回収が可能です。ダウンロードファイルはZip形式で圧縮され、学生一人に対して「学生が提出した添付ファイル」と「テキストファイル(名前、提出期限、コメント)」の2種類のファイルがセットとなります。(添付ファイルがない場合は「テキストファイル」のみとなります)

圧縮解凍ソフトのインストールについては、Blackboard@Tamagawa のヘルプボタンを押して、「プラグインインストールマニュアル」をご覧ください。

◆利用時の注意点：

- ・サーバ負荷軽減のため、提出期限の分散をお願いします。(午後 11 時 55 分に集中しています。)

例. 午後 10:00 (22:00)、午後 11:30 (23:30) など

- ・学生の課題提出は一回のみです。(再提出の場合には、教員が課題を削除後、再提出のこと)

- ・課題名には、全角文字(2バイト文字)を使用しますと、ダウンロードされるファイル名の、全角文字の部分が_ (アンダーバー)に変換されますので「半角英数字」での利用を推奨します。

例 .Report01、Week01-Report ※課題機能の詳細は、マニュアルコース内の「課題の追加」部分をご覧ください。

編集後記

MyPage の掲示は学生ごとにパーソナライズされ提供しておりますが、11 月末で 650 件を超えました。特に掲示内容が個人を特定した用件の既読率は高く、徐々に活用が進んでいる様子が伺えます。Blackboard@Tamagawa のマニュアルをインストラクター向け、学生向けともに今秋刷新。どうぞ、便利にご利用ください。

e-Education NewsLetter 2006 Vol.4

2007 年 1 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp